竹林

白河市立五箇中学校だより　No.14

発　　行　　平成３０年７月１３日
発行責任者　　校長　三森　浩晶

☆　白河市青少年健全育成推進大会　「少年の主張」発表　☆

７月９日（月）白河市青少年健全育成推進大会「少年の主張」発表がコミネスで行われました。白河市内全中学校より代表生徒が発表しました。五箇中学校からは、３年生竹井　未来さんが「支えられているから」とい題目で、卓球部部長としての経験をもとに、支えてくれる仲間の大切さについて発表しました。

支えられているから

五箇中学校　３年　竹井　未来

あなたにとって「格好いい部長」とはどんな人ですか？試合で結果を残せる人？リーダーシップがあって部員をまとめられる人？そんな中、格好いい部長という存在から遠く離れている私は、卓球部の部長を務めています。卓球部の３年生の女子は、私を含めて２人だけです。同級生の女子は習い事が忙しく、部活に来られる日が限られています。私が入学してから五箇中の卓球部は、部長は男子、副部長は女子というのが慣例となっていました。だから私は副部長になるのだとぼんやりと思っていました。

夏休みの後半、新しい部長を決めました。部長は男子だから・・・、こんなきまりはどこにもないのに、私は部長にはならないから大丈夫という安心感がありました。声を上げる人がいないまま時間だけが過ぎていきます。空気を断ち切るように先生が、「部長になるのに強さは関係ないよ。大変かもしれないけど、頑張った分、成長するよ。」とみんなに投げかけました。すると「副部長ならやります。」と１人の男子が言いました。「私が副部長じゃないの？」と思っていると、「部長で大丈夫？」と先生が私に向かって言いました。部長になることに不安と抵抗感がありました。私が部長になることに不満そうな人もいました。しかし、先生の言葉を信じてみようと思い、部長になることを受け入れることを決めました。

部長の仕事は自分で思っていたよりも大変でした。みんなの上に立って行動することへのプレッシャーはとても強いものでした。指示を出した時に返事が返ってこなかったこと、用事があったり、体調を崩したりして部活動を休むことに対する後ろめたさが私を押しつぶしていくのを感じました。

新体制になってから、大会がありました。「他の学校の部長はだれなんだろう。」と思い、周りを見渡しました。やはり、今までの大会で入賞している人ばかりでした。そんな状況を見て、「私に部長なんてやる資格があるのだろうか。もっと部長に向いている人はいるのに、なんで部長をやってくれなかったのだろう。」という気持ちで胸がいっぱいになりました。

暗い気持ちのまま、部長の仕事を続けていきました。そんな時、「大丈夫だよ。」「自分を追い込まないでね。」と友達が励ましてくれました。ふと我に返りました。私は一人じゃなく、周りに支えてくれる友達、後輩、先生がいることを。私は一人で抱え込んでしまうことがあります。でも、たくさんの励ましをみんなからもらっていました。支えてもらっていることに気づくと、だめな自分だけど頑張ろうと思えるようになりました。すると、前よりも卓球を楽しめるようになってきました。

部活をするからには、活躍し大会で結果を残したいと考えるのは当然です。しかし、普段の生活や日頃の限られた練習時間の中でどこまで真剣に部活動に取り組めるかが大切だと考えるようになりました。私は部長になって、たくさん悩んだり、挫折したりすることがありました。

先生の一言に背中を押してもらい、周囲のみんなに支えられて、格好良くはないけど部長を頑張ることができています。挑戦することは、必ず自分にとって得ることがたくさんあるのだと思います。

部活動はこつこつ努力すること、目標に向かって一丸となって取り組むこと、周りの人を尊敬しながら自分自身も楽しむこと、うまくいくとは限らなくても何事も自信を持って行動していくこと、他人の凄さに圧倒されない、比べないようにしていくこと。本当にたくさんのことを学びました。これは今だけでなく、これからの人生でも生きる宝物です。　（発表　全文）